北海道新聞
自治体PR・地方創生関連ご案内

«白老町 イベント+フォーラム+意識調査»

多文化共生イベントの実施およびフォーラムの採録発信と、意識調査

白老町は現在、道内のみならず、道外、国外からも注目されている自治体です。**2020年4月に「民族共生象徴空間」（愛称：「ウポポイ」）がオープンすること**が大きな理由の一つです。アイヌ文化を復興・発展させる拠点、そして、国として、先住民族の尊厳を尊重し差別のない多様な文化を持つ社会を築いていくための象徴、という意義を持つプロジェクトとして整備が進められています。

白老町では《多文化共生》をスローガンに掲げ、あらゆる人種や文化、価値観などが共存共栄するまちづくりを推進しています。取り組みの一つとして、**「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」**の製作が行われています。今回は、この取り組みを白老町内に留めず、全道に住む読者に広く知ってもらうため、パッチワーク作りイベントの実施から、フォーラムの採録広告の掲載、意識調査までのお手伝いをさせていただきました。

「多文化共生」は漢字で構成され、意味を捉えることが難しく感じませんか？ 一見難しく思えるこの言葉を、言葉の壁を超えて理解へ導く取り組みが「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」の製作です。**各地から寄せられた思いのこもった布に、町民主体で、アイヌ文化の素晴らしい表現であるアイヌ文様刺繍をした後、布を縫い合わせて作品に**しています。現在は、地域おこし協力隊としてロシア出身のデザイナーさんも参加されており、イベントではハワイアンキルトとのコラボレーションも始まりました。

広告掲載に関する意識調査(DODES)では、広告閲覧後の『「多文化共生」への理解度』が68.8%(女性では76.8%)と、広告掲載の意味を感じる結果が得られ、**広告紙面に掲載したコード(パッチワーク作り参加者募集サイトへのリンク)のクリック数も掲載から一週間で700件を超える**など、数字でも広がりが確認できました。

今後の展開にもぜひご注目ください！

（苫小牧支社営業部 長谷川夏樹,村上美優）

（2018年11月25日 朝刊 全道版 全7段）